

〔續日本紀四明〕和銅元年三月庚申、美濃國安八郡人國造千代妻如是女、一產三男、給稻四百束、乳母一人。

〔東大寺奴婢籍帳〕東大寺大宅、可是麻呂口口籍帳案。天平勝寶元年

婢飯虫、年卅四

婢伊蘇賣、年卅三。略

婢多比賣、年八十九。略

婢白刀白賣、年十八

〔續日本紀三十一光仁〕寶龜二年五月壬寅、授正六位上小野朝臣小野虫賣從五位下、

〔古事記上〕於是須佐之男命、以爲人有其河上、而尋覓上往者、老夫與老女二人在、而童女置中而泣、爾

問賜之汝等者誰、故其老夫答言、僕者國神大山上、津見神之子焉、僕名謂足、上名椎、妻名謂手、上名椎、

女名謂櫛名田比賣。

〔古事記傳三〕高御產巢日神。略日は書紀に産靈と書れたる靈字よく當れり、凡て物の靈異な

るを比と云。略比古比賣などの比も、靈異なるよしの美稱なり、

〔古事記傳五〕比賣は比古に對て、女を美て云稱にて、比は産巢日などの日の意なり。略賣は女

なり、

〔日本書紀三神武〕庚申年八月戊辰、天皇當立、正妃改廣求華貴、時有人奏之曰、事代主神、共三嶋溝、櫛耳

神之女玉櫛媛所生兒、號曰媛、踏躡五十鈴、媛命是國色之秀者、天皇悅之、

〔東大寺要錄〕延曆僧錄文

仁政皇后菩薩、諱安宿媛、尊號天下應真天皇、

出家尼名光明子沙彌